

例2 偶発債務の発生・消滅

- ① 得意先千葉商会の借入金¥8,000,000の保証人となった。
- ② 上記①の借入金が、支払期日に返済された。

仕訳

- ① (借)保証債務見返 8,000,000 (貸)保証債務 8,000,000
- ② (借)保証債務 8,000,000 (貸)保証債務見返 8,000,000

以上で、例2の解説を終了します。

例3 債務の弁済と求償権の行使

保証人となっていた神奈川商店の借入金¥3,000,000が支払期日に返済されなかったとして、債権者から請求を受けたため、本日、当社が利息¥30,000とともに小切手を振り出して支払った。

仕訳

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| (借)未収入金 | 3,030,000 | (貸)当座預金 | 3,030,000 |
| 保証債務 | 3,000,000 | 保証債務見返 | 3,000,000 |



借方の未収入金は神奈川商店に対する求償権をあらわす。

以上で、例3の解説を終了します。

別紙 12-4

解答

<u>貸借対照表</u>		(単位：円)
埼玉商事株式会社	令和〇年3月31日	
	：	
	負債の部	
I 流動負債		
：		
4. 短期借入金	400,000	
5. リース債務	<u>200,000</u>	
流動負債合計		×××××
II 固定負債		
1. 長期借入金	1,100,000	
2. リース債務	600,000	
3. 退職給付引当金	<u>300,000</u>	
固定負債合計		<u>2,000,000</u>
負債合計		<u>×××××</u>

以上で、例4の解説を終了します。

別紙 12-5

年 組 番	
名前	

第12章 基本問題 (p. 111)

(1)	ア		イ	
(2)	ウ		エ	
	オ			

第12章 演習問題 (p. 111)

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

別紙 13-1

	年	組	番
名前			

第 13 章 基本問題 (p. 114)

①

(1)	ア		イ	
(2)	ウ			

②

ア		イ		ウ	
エ		オ		カ	

別紙 14-1

例 1 株式会社の設立

岩手物産株式会社は、設立にさいし、株式100株を1株につき ¥80,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は会社法に規定する最高限度額とした。また、設立準備に要した諸費用 ¥300,000は小切手を振り出して支払った。

仕訳および解説

(借) 当座預金 8,000,000	(貸) 資本金 4,000,000
	資本準備金 4,000,000
(借) 創立費 300,000	(貸) 当座預金 300,000

以上で、例1の解説を終了します。

例 2 増資

青森商事株式会社は、設立後、あらたに株式50株を1株につき¥60,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、資本金に計上しない金額は会社法に規定する最高限度額とした。また、この株式の発行に要した諸費用¥200,000は小切手を振り出して支払った。

▼ 仕 訳 _____			
(借) 当 座 預 金	3,000,000	(貸) 資 本 金	1,500,000
		資 本 準 備 金	1,500,000
(借) 株 式 交 付 費	200,000	(貸) 当 座 預 金	200,000

以上で、例2の解説を終了します。

例 3 資本準備金の減少と資本金の増加

福島商事株式会社は、株主総会の決議にもとづき、資本準備金¥2,000,000を減少して資本金を同額増加した。

▼ 仕 訳 _____			
(借) 資 本 準 備 金	2,000,000	(貸) 資 本 金	2,000,000

以上で、例3の解説を終了します。

例 4 資本金の減少と資本準備金の増加(減資)

札幌商事株式会社は、株主総会の決議にもとづき、資本金 ¥5,000,000を減少して資本準備金を同額増加した。

仕訳

(借) 資 本 金 5,000,000 (貸) 資本準備金 5,000,000

以上で、例4の解説を終了します。

年	組	番
名	前	

第 1 4 章 基本問題 (p. 118)

(1)	ア		
(2)	イ		ウ
(3)	エ		オ

第 1 4 章 演習問題 (p. 118)

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

例1 資本準備金の減少とその他資本剰余金の増加

京都商事株式会社は、株主総会の決議にもとづき、資本準備金 ¥3,000,000を減少させて、その他資本剰余金を同額増加させた。

仕訳

(借) 資本準備金 3,000,000 (貸) その他資本剰余金 3,000,000

以上で、例1の解説を終了します。

(2)

貸借対照表

兵庫商事(株)	令和〇年4月1日		(単位：円)
現金預金	3,530,000	買掛金	2,560,000
売掛金	2,180,000	借入金	8,300,000
有価証券	2,500,000	資本金	32,000,000
商品	13,100,000	資本準備金	5,000,000
建物	17,500,000	利益準備金	1,000,000
備品	10,400,000	別途積立金	350,000
のれん	100,000	繰越利益剰余金	100,000
	<u>49,310,000</u>		<u>49,310,000</u>

以上で、例2の解説を終了します。

例 2 利益準備金の計上(資本金の $\frac{1}{4}$ を考慮する場合)

例 1 において、資本準備金と利益準備金の合計額が¥2,430,000であった場合の仕訳を示しなさい。

仕訳および解説

(借) 繰越利益剰余金	1,720,000	(貸) 未払配当金	1,000,000
		利益準備金	70,000
		別途積立金	650,000

以上で、例2の解説を終了します。

例 3 新築積立金の積み立て

株主総会の決議により、繰越利益剰余金のうち¥30,000,000を新築積立金として積み立てた。

仕訳

(借) 繰越利益剰余金	30,000,000	(貸) 新築積立金	30,000,000
-------------	------------	-----------	------------

以上で、例3の解説を終了します。

例 4 新築積立金の取り崩し

かねて建設を依頼していた建物が完成し、引き渡しを受けたので、建設代金¥70,000,000を小切手を振り出して支払った。なお、取締役会の決議により、新築積立金¥70,000,000を取り崩した。

仕訳

(借) 建	物	70,000,000	(貸) 当座預金	70,000,000
(借) 新築積立金		70,000,000	(貸) 繰越利益剰余金	70,000,000

以上で、例4の解説を終了します。

例 5 損失の処理

株主総会において、繰越損失(マイナスの繰越利益剰余金)¥2,000,000を填補するため、別途積立金¥800,000 その他資本剰余金¥500,000 利益準備金¥700,000を取り崩すことを決議した。

仕訳

(借) 別途積立金	800,000	(貸) 繰越利益剰余金	2,000,000
その他資本剰余金	500,000		
利益準備金	700,000		

以上で、例5の解説を終了します。

例 6 資本準備金による損失の処理

滋賀産業株式会社は、株主総会の決議にもとづき、資本準備金 ¥8,000,000 を減少させて、その他資本剰余金を同額増加させたうえで、繰越損失 ¥8,000,000 を填補した。

▼ | 仕訳 | _____

(借) 資本準備金	8,000,000	(貸) その他資本剰余金	8,000,000
(借) その他資本剰余金	8,000,000	(貸) 繰越利益剰余金	8,000,000

以上で、例6の解説を終了します。

例 7 その他資本剰余金の配当

和歌山商事株式会社は、株主総会において、その他資本剰余金 ¥2,000,000 の配当を行うことを決議した。なお、配当にともない、会社法に規定する準備金を計上する。ただし、資本金の額は ¥50,000,000 資本準備金と利益準備金の合計額は ¥3,000,000 である。

▼ | 仕訳 | _____

(借) その他資本剰余金	2,200,000	(貸) 未払配当金	2,000,000
		資本準備金	200,000

◆ その他資本剰余金から配当したので、配当金 ¥2,000,000 の $\frac{1}{10}$ に相当する額を資本準備金に計上する。

以上で、例7の解説を終了します。

例 8 配当平均積立金からの配当

松山商事株式会社は、株主総会において、配当平均積立金 ¥2,000,000 を取り崩して配当を行うことを決議した。なお、配当にともない、利益準備金 ¥200,000 を計上した。

仕訳

(借) 配当平均積立金	2,000,000	(貸) 繰越利益剰余金	2,000,000
(借) 繰越利益剰余金	2,200,000	(貸) 未払配当金	2,000,000
		利益準備金	200,000

以上で、例8の解説を終了します。

解答

貸借対照表		(単位:円)
奈良商事株式会社	令和〇年12月31日	
	純資産の部	
I 株主資本		
(1) 資本金		50,000,000
(2) 資本剰余金		
1. 資本準備金	5,000,000	
2. その他資本剰余金	<u>600,000</u>	
資本剰余金合計		5,600,000
(3) 利益剰余金		
1. 利益準備金	1,200,000	
2. その他利益剰余金		
① 配当平均積立金	900,000	
② 新築積立金	800,000	
③ 別途積立金	350,000	
④ 繰越利益剰余金	<u>3,920,000</u>	
利益剰余金合計		<u>7,170,000</u>
株主資本合計		<u>62,770,000</u>
純資産合計		<u>62,770,000</u>
負債及び純資産合計		<u>×××××</u>

以上で、例9の解説を終了します。

別紙 16-10

年	組	番
名前		

第16章 基本問題 (p. 132)

(1)	ア		イ	
(2)	ウ			
(3)	エ			
(4)	オ		カ	

第16章 演習問題 (p. 133)

1

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		

別紙 17-1

例 1 **自己株式の取得**

横浜商事株式会社は、発行済株式のうち100株を1株につき ¥50,000で取得し、代金は買入手数料¥100,000とともに小切手を振り出して支払った。

▼ **仕訳** _____

(借) 自己株式 5,000,000 (貸) 当座預金 5,100,000
 支払手数料 100,000

◆ 自己株式は有価証券のような資産ではないので、支払手数料を取得原価に加えることはできない。

以上で、例1の解説を終了します。

別紙 17-4

	年	組	番
名前			

第17章 基本問題 (p.136)

(1)	ア			
(2)	イ			
(3)	ウ		エ	

第17章 演習問題 (p.136)

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

別紙 18-1

例 1
新株予約権の発行

湘南商事株式会社は、次の条件で新株予約権を発行し、受け取った払込金は当座預金とした。

発行条件

発行総数 10個(新株予約権1個につき5株を付与)

払込金額 新株予約権1個につき¥50,000

権利行使価額 1株につき¥80,000

権利行使期間 令和〇1年7月1日~令和〇2年6月30日

▼ **仕訳** | _____

(借) 当 座 預 金 500,000 (貸) 新 株 予 約 権 500,000

¥50,000 × 10個 = ¥500,000

以上で、例1の解説を終了します。

例 2 新株予約権の行使(新株発行)

湘南商事株式会社は、例1で発行した新株予約権のうち5個の権利行使があったので、新株25株(新株予約権1個につき5株)を発行し、権利行使価額の払込金を当座預金とした。ただし、会社法に規定する最高限度額を資本金に計上しないことにした。

仕訳

	$¥80,000 \times 25 \text{株} = ¥2,000,000$		
(借) 当座預金	2,000,000	(貸) 資本金	1,125,000
新株予約権	250,000	資本準備金	1,125,000
	$¥50,000 \times 5 \text{個} = ¥250,000$		$(¥2,000,000 + ¥250,000) \times \frac{1}{2} = ¥1,125,000$

以上で、例2の解説を終了します。

例 3 新株予約権の行使(自己株式交付)

湘南商事株式会社は、例1(p.138)で発行した新株予約権のうち3個の権利行使があったので、自己株式15株(1株の帳簿価額¥76,000)を交付し、権利行使価額の払込金を当座預金とした。

仕訳

	$¥80,000 \times 15 \text{株} = ¥1,200,000$		$¥76,000 \times 15 \text{株} = ¥1,140,000$
(借) 当座預金	1,200,000	(貸) 自己株式	1,140,000
新株予約権	150,000	その他資本剰余金	210,000
	$¥50,000 \times 3 \text{個} = ¥150,000$		差額

以上で、例3の解説を終了します。

例 4 権利行使されなかった新株予約権

例 1 (p.138)で発行した新株予約権のうち、権利行使期限の令和〇2年6月30日までに権利行使されなかった新株予約権は2個であった。

仕訳

(借) 新株予約権 100,000 (貸) 新株予約権戻入益 100,000

¥50,000 × 2個 = ¥100,000

以上で、例4の解説を終了します。

貸借対照表		
鎌倉商事株式会社	令和〇年12月31日	(単位：円)
	：	
純資産の部		
I 株主資本		
(1) 資本金		40,000,000
(2) 資本剰余金		
1. 資本準備金	3,000,000	
2. その他資本剰余金	<u>2,000,000</u>	
資本剰余金合計		5,000,000
(3) 利益剰余金		
1. 利益準備金	1,000,000	
2. その他利益剰余金		
① 新築積立金	1,200,000	
② 繰越利益剰余金	<u>2,700,000</u>	
利益剰余金合計		4,900,000
(4) 自己株式		<u>△300,000</u>
株主資本合計		49,600,000
II 評価・換算差額等		
(1) その他有価証券評価差額金		600,000
III 新株予約権		<u>1,500,000</u>
純資産合計		<u>51,700,000</u>
負債及び純資産合計		<u>×××××</u>

以上で、例5の解説を終了します。

別紙 18-6

	年	組	番
名前			

第 18 章 基本問題 (p. 141)

(1)	ア		(2)	イ	
-----	---	--	-----	---	--

第 18 章 演習問題 (p. 141)

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

別紙 19-1

	純資産の部	
I 株主資本		
(1) 資本金		10,000,000
(2) 資本剰余金		
1. 資本準備金	<u>500,000</u>	
資本剰余金合計		500,000
(3) 利益剰余金		
1. 利益準備金	900,000	
2. その他利益剰余金		
① 新築積立金	3,000,000	
② 繰越利益剰余金	<u>1,795,000</u> ⑤	
利益剰余金合計		<u>5,695,000</u> ④
株主資本合計		<u>16,195,000</u> ③
II 評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		200,000 f
III 新株予約権		<u>1,200,000</u>
純資産合計		<u>17,595,000</u> ②
負債及び純資産合計		<u>27,495,000</u> ①

以上で、貸借対照表の作成例の解説を終了します。

別紙 19-2

	年 組 番
名前	

第 19 章 基本問題 (p.150)

①

閉卸法	
誘導法	

②

--	--

③

--

別紙 19-3

	年 組 番
名前	

第 2 編 総合問題 (p.152)

①

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		
(9)		
(10)		

別紙 20-1

◆損益計算書の表示・計算区分◆

I 売上高	200	売上高から	営業損益計算	第22～23章で学習
II(-)売上原価	110	売上原価を差し引いて		
売上総利益	90	売上総利益(または売上総損失)を計算し、さらに		
III(-)販売費及び一般管理費	50	販売費及び一般管理費を差し引いて	営業利益(または営業損失)を計算する。	
営業利益	40			
IV(+)営業外収益	20	営業利益に営業外収益を加え、	経常損益計算	第24章で学習
V(-)営業外費用	15	営業外費用を差し引いて		
経常利益	45	経常利益(または経常損失)を計算する。		
VI(+)特別利益	10	経常利益に特別利益を加え、	純損益計算	第25章で学習
VII(-)特別損失	5	特別損失を差し引いて		
税引前当期純利益	50	税引前当期純利益を計算し、さらに		
(-)法人税、住民税及び事業税	15	法人税、住民税及び事業税を差し引いて		
当期純利益	35	当期純利益(または当期純損失)を計算する。		

以上で、損益計算書の区分の解説を終了します。

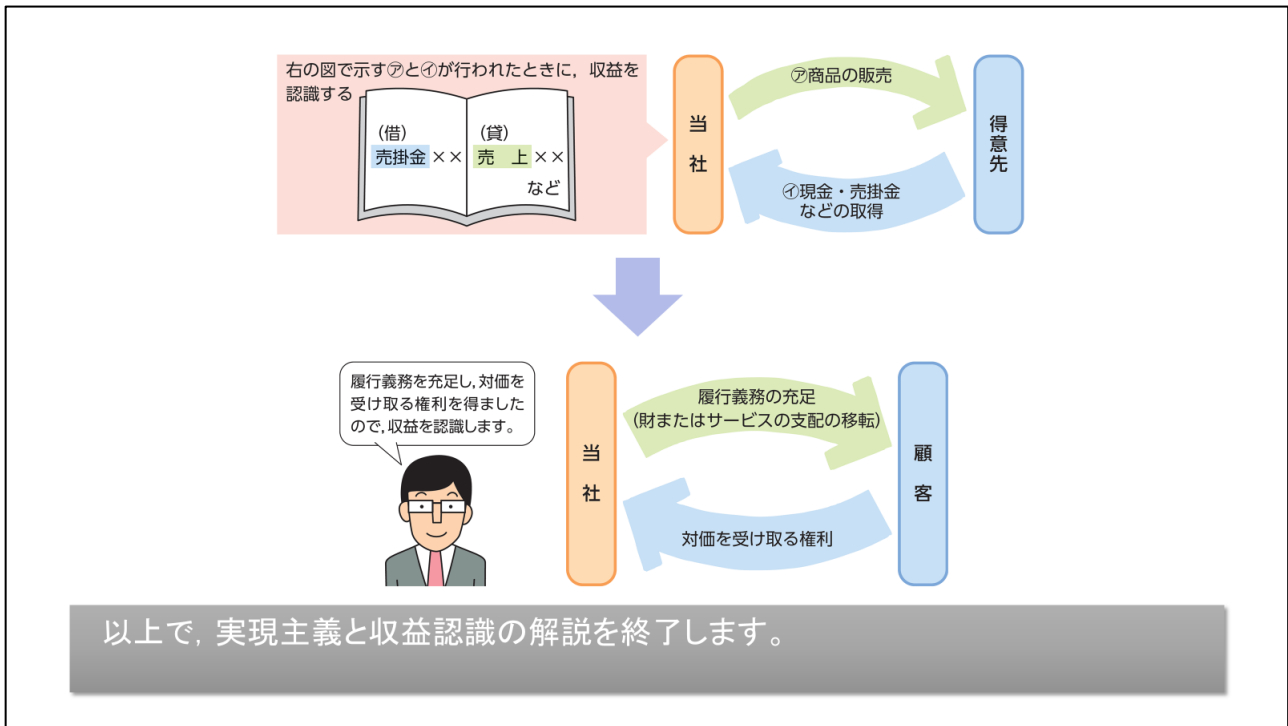
別紙 20-2

	年	組	番
	名		
	姓		

第20章 基本問題 (p.158)

(1)	ア				
(2)	イ		ウ		エ

別紙 21-1



別紙 21-2

年	組	番
名	画	

第21章 基本問題 (p.163)

1

(1)	ア		イ	
(2)	ウ		エ	
(3)	オ			
(4)	カ			
(5)	キ			

2

(1)	
(2)	計算式：

例 3 売上割引

山形商店に対する売掛金¥300,000について、同店から所定の期日前に支払いの申し出を受けたので2%の割引を行い、割引額を差し引いた金額を同店振り出しの小切手で受け取った。

仕訳		
(借) 現金	金	294,000 (貸) 売掛金 300,000
売	上	6,000
		$¥300,000 \times 0.02 = ¥6,000$

以上で、例3の解説を終了します。

例 4 工事進行基準による工事収益の計上

建物の建設を引き受け、工事収益総額¥200,000,000で工事契約を締結し、工事原価総額を¥160,000,000と見積もった。当期中の工事原価は¥48,000,000であった。期末に、工事進行基準により工事の進捗度に応じた工事収益を計上する。

仕訳		
(借) 工事原価	48,000,000	(貸) 工事費用の諸勘定 48,000,000
契約資産	60,000,000	工事収益 60,000,000

なお、工事収益¥60,000,000は次のように計算する。

$$\text{工事収益総額} ¥200,000,000 \times \frac{\text{当期工事原価} ¥48,000,000}{\text{工事原価総額} ¥160,000,000} = ¥60,000,000$$

工事の進捗度30%

以上で、例4の解説を終了します。

別紙 22-5

	年	組	番
名前			

第22章 基本問題 (p.169)

①

(1)	ア		イ	
(2)	ウ			

第22章 演習問題 (p.169)

①

	借方	貸方
(1)		
(2)		

②

	借方	貸方

③

工事収益	¥
計算式:	

別紙 23-1

〇〇株式会社 損益計算書 (単位:百万円)

令和〇年1月1日から令和〇年12月31日まで

I	売上高			1,000	
II	売上原価				↓
	1. 期首商品棚卸高	200			↑
	2. 当期商品仕入高	(+) <u>700</u>			↑
	合計	900			
	3. 期末商品棚卸高	(-) <u>300</u>		600	↑
	売上総利益			400	

以上で, 売上原価と費用収益対応の原則の解説を終了します。

例 1 **開発費**

新製品の市場開拓のために広告宣伝を行い、その費用¥800,000を小切手を振り出して支払った。

仕訳

(借) 開 発 費 800,000 (貸) 当 座 預 金 800,000

以上で、例1の解説を終了します。

例 2 **研究開発費**

新製品の研究開発にのみ使用する目的で事務用品¥50,000を購入し、代金は現金で支払った。

仕訳

(借) 研 究 開 発 費 50,000 (貸) 現 金 50,000

以上で、例2の解説を終了します。

別紙 23-4

損益計算書		
広島商事株式会社 令和〇年1月1日から令和〇年12月31日まで (単位:円)		
I 売上高		7,800,000
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	1,250,000	
2. 当期商品仕入高	<u>4,750,000</u>	
合計	6,000,000	
3. 期末商品棚卸高	<u>880,000</u>	5,120,000
売上総利益		2,680,000
III 販売費及び一般管理費		
1. 給料	270,000	¥420,000 - ¥150,000
2. 広告料	120,000	
3. 貸倒引当金繰入	6,000	
4. 保険料	60,000	¥65,000 - ¥5,000
5. 減価償却費	30,000	
6. 消耗品費	120,000	¥200,000 - ¥80,000
7. 開発費	200,000	
8. 研究開発費	330,000	¥100,000 + ¥230,000
9. 雑費	<u>36,000</u>	1,172,000
営業利益		1,508,000

以上で、例3の解説を終了します。

別紙 23-5

年	組	番
名		
前		

第23章 基本問題 (p. 173)

(1)	ア	
(2)	イ	
(3)	ウ	

第23章 演習問題 (p. 173)

1

	借方	貸方
(1)		
(2)		

例 1 仕入割引

福島商店に対する買掛金¥300,000を所定の期日前に支払うことを申し出たので、同店から2%の割引を受け、割引額を差し引いた金額を小切手を振り出して支払った。

仕訳

(借) 買掛金	300,000	(貸) 当座預金	294,000
		仕入割引	6,000
			$¥300,000 \times 0.02 = ¥6,000$

以上で、例1の解説を終了します。

解答

損益計算書

宮城商事株式会社 令和〇年1月1日から令和〇年12月31日まで (単位:円)

営業利益		2,000,000
IV 営業外収益		
1. 受取利息	120,000	
2. 有価証券利息	50,000	
3. 仕入割引	30,000	
4. 雑益	15,000	215,000
V 営業外費用		
1. 支払利息	300,000	
2. 有価証券評価損	400,000	
3. 雑損	5,000	705,000
経常利益		1,510,000

以上で、例2の解説を終了します。

別紙 24-3

	年	組	番
名			
前			

第24章 基本問題 (p.177)

(1)	ア		イ	
	ウ			
(2)	エ			
(3)	オ		カ	
(4)	キ			

第24章 演習問題 (p.178)

①

借 方	貸 方

②

(ア)	売上総利益	¥	
	計算式:		
(イ)	営業利益	¥	
	計算式:		
(ウ)	経常利益	¥	
	計算式:		

別紙 25-1

例 1 特別利益(投資有価証券売却益)

その他有価証券として保有する沖縄商事株式会社の株式100株(帳簿価額¥4,500,000)を1株につき¥48,000で売却し、代金は当座預金に振り込まれた。

仕訳

(借) 当座預金	4,800,000	(貸) その他有価証券	4,500,000
		投資有価証券売却益	300,000

以上で、例1の解説を終了します。

例 2 特別損失(火災損失・投資有価証券売却損)

- ① 建物(取得原価¥10,000,000 減価償却累計額¥6,000,000)が、火災により焼失した。
- ② その他有価証券として保有する徳島商事株式会社の株式10株(帳簿価額¥800,000)を、1株につき¥67,000で売却し、代金は3日後に受け取ることにした。

仕訳

- ① (借)建物減価償却累計額 6,000,000 (貸)建物 10,000,000
火災損失 4,000,000
- ② (借)未収入金 670,000 (貸)その他有価証券 800,000

以上で、例2の解説を終了します。

解答

<u>損益計算書</u>		
南西商事株式会社 令和〇年1月1日から令和〇年12月31日まで		(単位:円)
経常利益		1,590,000
Ⅵ 特別利益		
1. 固定資産売却益	230,000	
2. 投資有価証券売却益	<u>370,000</u>	600,000
Ⅶ 特別損失		
1. 災害損失	300,000	
2. 固定資産除却損	150,000	
3. 関係会社株式評価損	<u>200,000</u>	<u>650,000</u>
税引前当期純利益		<u>1,540,000</u>

以上で、例3の解説を終了します。

▼ 解答

損益計算書

南西商事株式会社 令和〇年1月1日から令和〇年12月31日まで (単位：円)

税引前当期純利益	1,540,000
法人税, 住民税及び事業税	<u>462,000</u>
当期純利益	<u>1,078,000</u>

以上で, 例4の解説を終了します。

年	組	番
名	別	

第25章 基本問題 (p.183)

①

(1)	ア		イ	
(2)	ウ			

②

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		

第25章 演習問題 (p.183)

(7)	税引前当期純利益	¥
	計算式:	
(4)	当期純利益	¥
	計算式:	

別紙 26-1

IV 営業外収益		
1. 受取利息	230,000	
2. 受取配当金	88,000	
3. 仕入割引	68,000	
4. 有価証券売却益	20,000	
5. 有価証券評価益	<u>30,000</u> d	436,000
V 営業外費用		
1. 支払利息	<u>100,000</u>	<u>100,000</u>
経常利益		815,000
VI 特別利益		
1. 固定資産売却益	<u>35,000</u>	35,000
VII 特別損失		
1. 固定資産除却損	<u>40,000</u>	<u>40,000</u>
税引前当期純利益		810,000
法人税、住民税及び事業税		<u>243,000</u> g
当期純利益		<u>567,000</u>

以上で、損益計算書の作成例の解説を終了します。

別紙 26-2

年 組 番	
名前	

第 26 章 基本問題 (p. 188)

(1)	ア		イ	
	ウ			
(2)	エ		オ	

第 26 章 演習問題 (p. 189)

損 益 計 算 書			
()株式会社		令和×年4月1日から令和○年3月31日まで	
(単位:円)			
I ()		()	
II ()			
1. 期首商品棚卸高	()		
2. 当期商品仕入高	<u>()</u>		
合 計	()		
3. 期末商品棚卸高	<u>()</u>	<u>()</u>	
()利益		()	
III 販売費及び一般管理費			
1. ()	()		
2. ()	()		
3. ()	()		
4. ()	()		
5. ()	()		
6. ()	()		
7. ()	()		
8. ()	()		
9. ()	<u>()</u>	<u>()</u>	
()利益		()	

■ 解答

株主資本等変動計算書

長野商事株式会社 令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで (単位：千円)

	株主資本										純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
		新築積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							
当期首残高	10,000	600	800	1,400	500	240	600	6,000	7,340	△2,000	16,740
当期変動額											
新株の発行	6,000										6,000
剰余金の配当					400			△4,400	△4,000		△4,000
新築積立金の積立						600		△600	—		—
別途積立金の積立							900	△900	—		—
当期純利益								7,500	7,500		7,500
自己株式の売却			300	300						1,500	1,800
当期変動額合計	6,000	—	300	300	400	600	900	1,600	3,500	1,500	11,300
当期末残高	16,000	600	1,100	1,700	900	840	1,500	7,600	10,840	△500	28,040

以上で、例1の解説を終了します。

株主資本等変動計算書

長野商事株式会社 令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで (単位：千円)

貸借対照表	
資産の部	
⋮	
負債の部	
⋮	
純資産の部	
I. 株主資本	
(1) 資本金	
(2) 資本剰余金	
1. 資本準備金	600
2. その他資本剰余金	1,100
(3) 利益剰余金	
1. 利益準備金	900
2. その他利益剰余金	
① 任意積立金	2,340
② 繰越利益剰余金	7,600
(4) 自己株式	
純資産合計	28,040

	株主資本										純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
		新築積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							
当期首残高	10,000	600	800	1,400	500	240	600	6,000	7,340	△2,000	16,740
当期変動額											
新株の発行	6,000										6,000
剰余金の配当					400			△4,400	△4,000		△4,000
新築積立金の積立						600		△600	—		—
別途積立金の積立							900	△900	—		—
当期純利益								7,500	7,500		7,500
自己株式の売却			300	300						1,500	1,800
当期変動額合計	6,000	—	300	300	400	600	900	1,600	3,500	1,500	11,300
当期末残高	16,000	600	1,100	1,700	900	840	1,500	7,600	10,840	△500	28,040

以上で、損益計算書・貸借対照表・株主資本等変動計算書の関係の解説を終了します。

別紙 27-3

	年	組	番
名前			

第27章 基本問題 (p.195)

1

(1)	ア		
(2)	イ		ウ
(3)	エ		

2

	借 方	貸 方
4/1		
6/25		
9/10		
3/31		

別紙 27-4

	年	組	番
名前			

第4編 総合問題 (p.222)

1

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

2

	借 方	貸 方
1月6日		
2月24日		
3月18日		
3月25日		
3月31日		
4月16日		
5月9日		

例 1 役務収益の計上(一時点で履行義務が充足される場合)

旅行サービスを提供している島根旅行社は、国内旅行のツアーを実施し、顧客から旅行代金¥500,000を現金で受け取った。

▼ 仕 訳 _____			
(借) 現	金	500,000	(貸) 役 務 収 益 500,000

☑ ◆
一時点で履行義務が充足されるので、金額を役務収益勘定の貸方に記入する。

以上で、例1の解説を終了します。

例 2 役務収益の計上(一定期間にわたり履行義務が充足される場合)

- ① 大学受験に向けた受験対策サービスを提供している倉吉予備校は、11月から3か月間開講する講座の申し込みを受け付け、同時に受講料¥600,000を現金で受け取った。
- ② 本日決算日(12月31日)となったので、当期の収益を計上した。
なお、上記①の講座は全体の3分の2が終了している。

▼ 仕 訳 _____			
① (借) 現	金	600,000	(貸) 契 約 負 債 600,000
② (借) 契 約 負 債		400,000	(貸) 役 務 収 益 400,000

$¥600,000 \times \frac{2}{3} = ¥400,000$

以上で、例2の解説を終了します。

例 5 役務原価の計上(仕掛品勘定からの振り替え)

例 2 (p.201) の倉吉予備校の講座では、決算日までに支出した費用は従業員の給料 ¥200,000 と消耗品費 ¥50,000 であった。なお、これらの費用は、仕掛品勘定で処理している。

仕訳

(借) 役務原価 250,000 (貸) 仕掛品 250,000

以上で、例5の解説を終了します。

年	組	番
名		
前		

第 28 章 基本問題 (p.203)

(1)	ア	
(2)	イ	

第 28 章 演習問題 (p.204)

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		

例 1 外貨建ての買掛金(取引発生時・決済時の処理)

次の各取引の仕訳を示しなさい。(決算年1回 3月31日)

5月1日 A社から商品 \$1,000を仕入れ、代金は掛けとした。(為替レート \$ 1 あたり ¥145)

6月30日 上記の買掛金 \$1,000を現金で支払った。(為替レート \$ 1 あたり ¥148)

<p>▼ 仕訳 _____</p> <p>5月1日 (借) 仕 入 145,000</p> <p>6月30日 (借) 買 掛 金 145,000</p> <p style="padding-left: 100px;">為替差損益 3,000</p>	<p>_____</p> <p>(貸) 買 掛 金 145,000</p> <p>(貸) 現 金 148,000</p>	<p>$\\$1,000 \times @\yen145 = \yen145,000$</p> <p>$\\$1,000 \times @\yen148 = \yen148,000$</p>
---	--	---

以上で、例1の解説を終了します。

例 2 外貨建ての売掛金(取引発生時・決済時の処理)

次の各取引の仕訳を示しなさい。(決算年1回 3月31日)

7月1日 B社に商品 \$1,500を売り上げ、代金は掛けとした。(為替レート \$ 1 あたり ¥146)

8月31日 上記の売掛金 \$1,500を現金で受け取った。(為替レート \$ 1 あたり ¥150)

<p>▼ 仕訳 _____</p> <p>7月1日 (借) 売 掛 金 219,000</p> <p>8月31日 (借) 現 金 225,000</p>	<p>_____</p> <p>(貸) 売 上 219,000</p> <p>(貸) 売 掛 金 219,000</p>	<p>$\\$1,500 \times @\yen146 = \yen219,000$</p> <p>$\\$1,500 \times @\yen150 = \yen225,000$</p> <p>為替差損益 6,000</p>
---	--	--

以上で、例2の解説を終了します。